

平成 22 年 3 月度第 1 回街づくり委員会議事録

日時：’ 10-3-4（木） 19：30～21：30

場所：平野市民センター第 1 会議室

出席者：雨宮、橋本、奥村、戸所、森、寺井、上原、杉本、中井、竹吉、倉橋、杉中、
井上、入江、乾

議事内容：

1. 近畿運輸局との面談報告と今後の対応について

2 月 23 日に近畿運輸局下谷旅客第 1 課長他が来訪され、当方が検討中の自家用車両による住民輸送事業に対し、以下の見解と新たな提案を受けたことが報告された。

- ① 自家用車両による住民輸送事業は種々の観点から問題があり実現は難しい。
- ② 国が支援する地域公共交通活性化・再生総合事業を利用し、大津市の地域公共交通活性化協議会に参画して、行政と一体となって取り組んだらどうか。

これに対し、わが街つくる会としては大きな転換期を迎えたと判断し、以下の 3 点で早急に新たな方向性を出して行く必要があるとの認識で一致した。今後委員会で審議して行くことになった。今回の議論では結論は出せていない。

- ① 自家用車両をリースしての自主運営による住民輸送事業の推進をどうするのか。
- ② 大津市の地域公共交通活性化協議会に参画し、行政と一体となって平野学区での路線バスの運行充実に取り組むのか。（従来の取り組み姿勢とは 180 度異なる）
- ③ バス事業への取り組み如何に関わらず、一般社団法人の設立を推進して行くのか。

以下に参考のため上記に関連し、各委員から出された意見を順不同で列挙した。

① 関連

- ・安全性、収支バランスがポイントだが、一度実験的にやってみてもよい。
- ・バス事業は一度白紙に戻したらどうか。ただし、街づくりは継続する。
- ・失敗してもよいから一度走らせてみたらどうか。
- ・バスに対する住民のニーズが今一つ不明確。署名を集める等意思確認が必要。

② 関連

- ・協議会の仕組みが分かっていない。早急に調査すべし。
- ・大津市が平野の交通問題を本当に取り上げてくれるのか不安。
- ・近畿運輸局はどこまでバックアップしてくれるのか保証がない。
- ・自治連の中に街づくり委員会を設け、自治連として協議会に参画するといったやり方も考えられる。
- ・わが街つくる会は発足の趣旨からして現在の組織的位置づけは維持すべきである。協議会に参加する場合でも法人として参加すればよい。

- ・行政との対応となると平野学区単独の力では弱い。同じような課題を抱える他のグループとの連携も必要ではないか。
- ・行政とのかかわりの中で取り組むとなれば、実現出来ても早くも3年後である。大きく検討の方向が変わるため住民の理解と協力が不可欠であり、これへ対応が大変重要である。

③ 関連

- ・法人はまず設立し、街づくりの活動の拠点とすべき。
- ・法人を設立し、企業にスポンサー協力と協賛金支援を求めて行くのがよい。
- ・設立を急ぐ必要はない。立ち上げるとしても活動の柱に防犯・防災問題を取り入れる等複数設定したらどうか。
- ・まず立ち上げる。しかし、活動の規模を縮小する方がよい。
- ・設立は賛成。バス以外の街づくりのテーマを入れて活動するようにしたい。
- ・自治連、社協の協力は必要だが、法人設立の条件とする必要はない。
- ・街づくりの活動の窓口を作る意味でも法人は設立しておくべき。
- ・法人設立はかえって行政と距離をおくことにならないか。慎重を期すべし。
- ・法人の設立で行政との対応窓口がはっきりし、やり易くなる。設立すべき。

以上のとおり様々な意見が噴出している。雨宮会長より準備委員会等で更に真剣に議論し早急に夫々の課題につき結論を出して行きたいとの表明があった。

なお、3月23日（火）開催の大津市地域公共交通活性化協議会の傍聴が出来ることになり、会長他有志委員が参加することになった。

2. 次回委員会の開催について

次回委員会は3月19日（金）19:30より、市民センター第1会議室で開催します。

以上